

令和6年度 第2回苦小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

【日 時】 令和6年11月13日（水）15:00～16:30

【場 所】 苦小牧市役所5階 第2応接室

【出席者】 菊田副会長、荒川委員、片石委員、五嶋委員、柴田委員
中村委員、長山委員、成田委員、三浦委員

【事務局】 苦小牧市 総合政策部 町田部長、
政策推進室 茶谷室長、
政策推進課 大宮課長、早出課長補佐、水谷主査、林川主事

議 事 次 第

- 1 開会
- 2 副会長挨拶
- 3 議題
 - (1) 第3期人口ビジョン及び総合戦略の骨子(案)に対する意見と対応方針について
 - (2) 第3期人口ビジョン及び総合戦略（素案）について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

3 議題

(4) 意見交換（質疑を含む）

＜A委員＞

純移動率を引き上げ、人口の下降を抑えられるように進めていただきたい。お示しいただいた方針で進めていただければと思う。

＜B委員＞

将来的に無くなってしまうような町村もある中で、自然増に期待をするだけではなく、苦小牧を選んでもらえるような画期的な政策を打ち出していかなければ厳しいと思う。

アンケートで苦小牧の良い所、悪い所が出ていたが、良い所は雪が少ないなど、これはプラスポイント。悪い所としては、まちが汚いというのがある。中央分離帯のごみが目立っている。綺麗なまちが移住する際に選ばれるとすれば、まちの美化や、子どもが遊べるような公園など、そういったところに力を入れていく必要があるか。

また、白老の北海道栄高校が移転の可能性があるとのことで、そういった子どもたちも来るとなると、人口の増加に大きな役割を果たすのではないかと思う。移住を決める際は、教育環境が重要。大学が来ることで学生も来る。学生が卒業したら地元就職もしやすく、良い方向に転がっていくのではないかと思う。

地道に増やしていくことも重要で、色々なことを積み重ねていくこの計画は私も賛成。

ただ、画期的な政策も入れていかないと、下方修正になっていくのではないかという心配がある。そのくらい日本全国の人口減少は止めようがないくらい進んでいくと思う。

＜C委員＞

今回の施策に関して、働く場所だと、これまで大きな企業の誘致で、苦小牧は成果を上げていたが、今回は小さい企業や新しい企業、あるいはベンチャー企業などにも目を向けていくとあった。

私はコワーキングスペースをやっているが、市内は今、4つか5つぐらい出来てきており、とても活性化していると感じている。全国展開しているフードデリバリーグループが市内に進出してきている。若い人が働きやすい企業の進出がある際に、それを支援することで若年層の流出が減る可能性もある。最近は、固定した事務所を持たない産業が進出の足がかりにコワーキングを利用する例は少なくない。新しい形の働く場所として「起業」や企業進出のサポートが素早く享受できる仕組みがあればと思う。

また、子育てに関連して、マイホームの現状は少し停滞しているところがある。ただ、苦小牧は土地も安いので注文住宅が首都圏よりも建てやすい環境にあるはずだが、お金の不安があるからマイホームを持てない。定住していただくために、国の支援だけではなく、

市からも何らかのマイホームの支援があると、良いのではないかなと思う。

今回の素案は課題に沿っているものだと思うので、もう少し身近な対策があると、より効果的だと思う。

＜D委員＞

10ページ目、実際にはこれから細かくKPIを定められると思うが、例えばスタートアップ企業や事業承継の目標値自体をどう設定するかなど、対策を組む上ではこういった数字で傾向を追うことも参考になるかと思う。

仕事柄、他の市町村と人口減の相談で色々お話をさせてもらっているが、大体キーワードで出るのが企業誘致とふるさと納税である。なかなか目新しいものはどこに行っても聞けない状況にあるが、私も苫小牧ならではの画期的な政策に注力いただくと、より人口増につながると思う。

＜E委員＞

10ページ、11ページ、基本的には第2期の4つの柱を継承しているが、「産業競争力を高める」という明快な柱が今回の第3期では表現がなくなってしまった気がする。

地域ブランド力を向上させる場合、苫小牧では、第一に浮かぶのは製造業のまちであること。第3期の5年間、ラピダス関連の苫小牧への影響は非常に大きなものになることは間違いないと考えている。

地域としての競争力を高めるためには、サポートする施策が必要になってくる。具体的には、札幌市が金融経済特区に指定され、市民税を最初の5年間、10年間免除する政策を実行しますということが報道されていたと思うが、千歳市も同様な減税策をやっていると聞いている。

また、5ページ「税外収入の確保」について、ふるさと納税とクラウドファンディングを取り組みますとのことだが、地域にお金を循環させるということが大切だと思う。ふるさと納税だけではお金を集める施策にはならないと思うので、減税策、税の免除策、これに伴う積極財政ということも考えてもいい時期に来ているのではと思う。

＜F委員＞

4ページ、子育て支援策の「妊娠期からの切れ目ない支援」について、こども家庭庁でも「切れ目のない」という文言があるので、戦略の中に加えると良いのではと思う。

5ページ、魅力の周知について、市民が誇りに思う部分と、市外の方が魅力だと思う部分にずれがあるので、そういう目線で政策を盛り込むといいのではと感じた。

「住みやすさ」についても「子育てしやすい」という文言を入れると良いのではと思う。

クラウドファンディングについて、苫小牧市はIT企業と工業力というのが魅力だと思うので、そういう部分でも戦略を立てていただきたい。

KPIの設定について、アンケート調査の設計や数値化にあたり、大学の先生や専門家を巻き込みながら数値設定をしていくと良いのではと思う。

7ページ「安心して結婚・子育てしやすい環境を整備する～」にも「切れ目のない子育て支援」という文言を入れると良いのではと思う。。

9ページ「多様性に富んだ社会、安全・安心な地域づくりで地方創生」について、札幌市では共生社会をスローガンとして掲げており、共生社会やつながるといった視点を入れていただけると良いのではと思う。

10ページ、スタートアップ、ベンチャー企業の創出について、法人登記、新しくベンチャーを創りたいとなった時に、どこに登記するのかなど悩むことがある。苫小牧だから創業した方が良いというようなメリット付けをしていただけると良いのではと思う。

基本目標2について、苫小牧市は共働き世帯と独り親が非常に多いので、そういった視点の政策があると、苫小牧市を選んでもらえると思う。

結婚の希望を叶える支援について、結婚に至る前の若年の妊娠問題や性教育など、教育委員会との連携も検討していただきたいと思う。

母子保健について、産前産後、育休というキーワードもあり、特に苫小牧市はワーク・ライフ・バランスの点では男女協働参画も全国でもかなり評価されている自治体だと感じているので、そういった文言をぜひ取り入れていただきたいと思う。

移住について、企業誘致を進めていくという視点から経営者や、高所得者層の望むようなまちづくりというのも考えていく必要があるのではないか。

広域連携事業と国際リゾートの形成の具体的な内容について教えてほしい。また、景観について、まちづくりの創生交付金など、今後使っていく予定はあるのか教えてほしい。

＜G委員＞

保育園では、年々、低年齢の入所率が下がっている。特に4月入所の入所率がここ数年で半分ぐらい落ちていて、0歳児の園児が減るというのは運営に大きな影響を及ぼす。

また、支援が必要なお子さんたちが必ず複数名いるが、国の基準では保育を遂行することが困難な状況であるため、そのような施策も組み込まれると良いなと思う。

さらに、共働きのお子さん方、特に低年齢の方々の長時間保育が増えている。長時間保育をさせながら子どもたちが望ましい生活、発達ができるような環境を私たち大人が考えていくことも大事ではないかと思う。

ファミリーサポートの登録支援員の高齢化と少人数化ということで、預けたくても利用できず、仕事を休まざるを得ないという状況も目の当たりにしている。保護者の生活を安定させる住みやすいまちづくりにつなげていただければと思う。

また、児童デイサービスについて、東側は利用者がいっぱいに入ることができない状況。今まで毎日利用できていたが、週に2日しか利用できないという状況もあるので、こういったことも含めて、住みやすいまちづくりをしていただければと思う。

＜Ｈ委員＞

子育て支援は大変。だからこそ是非実現していただきたい。未来を担う子供たちのために投資をして、色々なことをやらなければいけない。

また、ＳＤＧｓについて、最近は薄れてきた気がするが、ＳＤＧｓはしっかりと気にしていくべきだと思う。これは苫小牧だけでなく世界的な課題である。

これだけ色々なことを考え、市の方針も出して、それでも人口が減る中で、苫小牧に戻ってきて、苫小牧をより良くしていこうという視点に立つ大人をたくさん作っていかなければならぬと思っている。それは我々ではなく、これからの中学生、高校生、大学生、小学生でもある。

＜Ｉ委員＞

個人的な考えになるが、結婚や出生率を上げたりすることは、地方に任せていてもなかなか進まない。お金の面と魅力の面を考えた施策を国が作っていく必要があるのではと思う。

私たちの学校も、2,000人以上の学生がいるが、8割方が苫小牧から離れてしまう。学生は苫小牧にどんな仕事があり、どういう魅力を持った都市なのか、なかなか感じることができないまま離れてしまう。

ＤＸやＧＸというところで、道内の中でもリードしていけるということで、まち全体を魅力的なまちにできるような気がしている。ＤＸ、ＧＸが進んでいくと、仕事も増え、魅力的なまちに住みみたいと思ってくれる若者も増えるのではと思う。

＜政策推進課長＞

何点かお答えさせていただく。

初めに、白老町の北海道栄高等学校について、そういった話があったことは事実だが、時期など決定的な話はまだ私どもの方にはいただいている。

産業競争力、地域ブランド力について触れていただいたが、今回示した戦略の中にエッセンスとして残っている。こういった要素も含めて、施策を具体化していきたい。

金融特区については、ノウハウも含めて、現状情報はいただいてないところ。ただ、税負担は、地域の経済を回すという点では、民間にとっては大変良い話であるが、一方で、自治体にとって税収となっている部分であるため、特区というような形で双方、支障のないような形でないと難しいと考えている。

ＤＸについては、4つの基本目標をデジタル技術の活用をベースにして、目標にチャレンジしていきたいということをお示しさせていただいている。

広域連携の事業については、現在の総合戦略の中でも、地域間連携の促進ということで広域連携事業の推進を施策として掲げており、広域連携による地域ブランドの推進や、災害時の広域相互応援による防災体制の充実を事業として掲げている。引き続き災害に強い、

住みやすいまちに向けて続けていく要素であると考えている。

国際リゾートについては、本市の成長戦略の一つとして臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開を掲げている。この戦略の方向性を示す形で都市再生コンセプトプランを策定し、進めているところ。

まちづくり交付金については、総合戦略はデジ田の交付金として色々種類がある。T Y P E 1 という自治体で既に取り組んでいるものを横展開する際に補助するメニューがあるが、苫小牧市のデジタル化は既に大方進んでいる状況にある。

また、先駆的な部分はT Y P E 2 になるが、これは今後の取組となるので、これから総合戦略に掲げる事業に基づいて、可能性のある補助金であれば、チャレンジしていく必要があると思っている。

S D G s については、現在、各事業がS D G s のどの部分に該当するか見えるように表記をしているところ。原案については今の計画のように見やすいような形で工夫していきたいと考えている。

＜総合政策部長＞

「苫小牧を選んでもらえる施策を」、「苫小牧ならではの施策を」という意見が多かった。まさにそのとおりだと我々も思っており、今回いただいた意見も踏まえ、また、新しい市長の考え方も盛り込みながら、進めていきたい。

具体的な話として、中央分離帯のごみの話があったが、物流のまちということで、大型車両が多いという原因は分かっているが、様々なまちから来られているという状況にあり、なかなか改善できていないところ。今後の課題であり、地道にやっていきたい。

自分のまちだけを考えるという考え方について、苫小牧市は近隣4町と定住自立圏という協定を結んでいる。今回、北海道栄高校の話があったが、白老町にとっては非常に大きな問題で、白老町の対応を我々としては見守るしかないという状況であることをご理解いただきたい。

生産年齢人口について、大学は北洋大学しかないため、進学を機に苫小牧から出ていく学生が多い状況。大学の誘致も一つの手であるが、駒澤大学を誘致する際は、市として50億円の捻出をしていたため、大学は札幌に行っても、苫小牧に戻って、就職してもらえるような施策も努力して考えていきたい。

地域の競争力を高めるサポートが必要ではないかというご意見について、苫小牧市では、企業に対して償却資産の税を2年間払ってもらい、その分を補助金で出している制度があり、一番多い企業で10億円を受け取っている。企業に対してさらにアピールしていきたいと考えており、積極的財政についても、今後の戦略を練る中で考えていきたい。

来年、小学校に上がる子が1, 200人強いるが、0歳児は900人を切っている。たったこの6年間で出生が1, 200人から900人を切るまでに落ちてきて、そこを伸ばしていくというのが非常に大変だと思う。子どもが減っていけば、保育園や子どもに関わ

る事業が成り立たなくなっていく可能性があり、何とかそこを増やしていきたいという思いはある。ただ、なかなか現実的には難しいと思っており、本日のように皆さんから色々なご意見をいただいた中で、市として何ができるか知恵を絞って、汗をかきながらやっていきたいと思っているので、今後もご指導の方をよろしくお願ひしたい。